

発行日 平成 24年 11 月 第57号

日頃、地域医療連携室にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

先月、「がん地域医療連携セミナー」が開催されました。今年度も院内外から多数のご参加をいただき、がん患者さんの在宅療養や看取りに対する関心の高さが伺われました。今回は、セミナーの概要と参加者を対象にしたアンケート結果についてご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳
地域医療連携室 高山国子

がん地域医療連携セミナー開催

- 日時：平成24年10月29日(月) 18時30分～19時30分
場所：平鹿総合病院 講堂
目的：在宅療養へ移行された患者の一事例を通して、在宅における質の高いターミナルケアを提供するための、がん医療・介護の具体的な連携方法を検討する。
テーマ：「肺がん患者の在宅支援・看取りのあり方」
内容：担当医・かかりつけ医・病棟看護師・訪問看護師による事例発表、質疑応答
参加者：84名
参加職種：医師・薬剤師・看護師・訪問看護師・保健師・ケアマネージャー

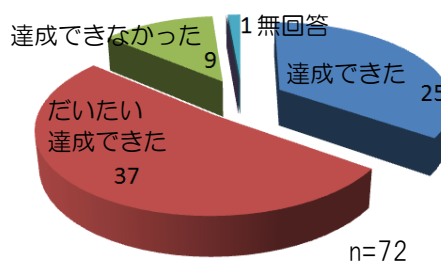
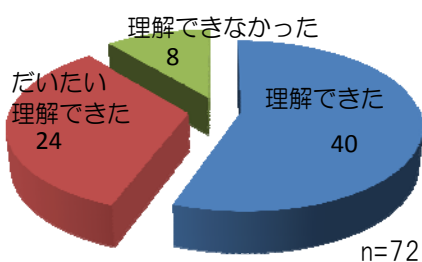
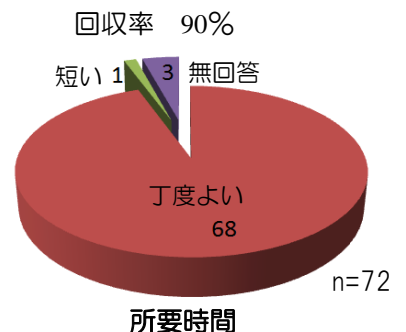
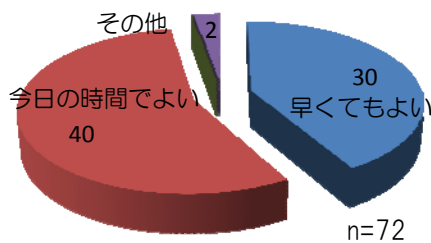
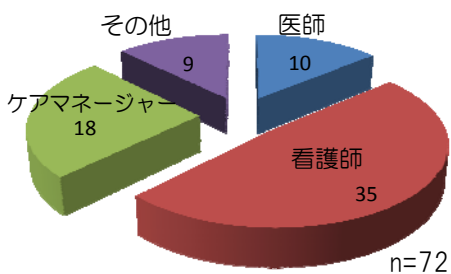


今回、初めてオーディエンス・レスポンス・システムを活用した質問法を取り入れました。回答結果がリアルタイムに表示され、「参加意識が高まった」と好評を得ました。

事例を通して、ターミナル期にある患者さんやご家族の思いを尊重した在宅療養や看取りのあり方について、多職種で考える機会となりました。

がん患者さんが地域の中で自分らしく生きていくことができるように、医療・介護の連携を強化することの必要性を強く感じました。

セミナーに関するアンケート調査



ご意見・ご感想(一部抜粋)

- 患者・家族の思いを知ることによって、在宅療養のあり方を見直すことができました。
- 在宅で看取りができる地域を目指せるよう、医療・福祉の連携強化と往診医の増加を期待している。